

北光だより

特別号

2023.9.29

全国学力・学習状況調査の結果 についてお知らせします



この調査は、本校の児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態を明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法、生活面の改善などに役立てることを目的としています。

8月に文部科学省から結果が送られてきましたので、その概要をお知らせします。今後学校では、「各教科における改善点」をもとに全学年で取組を進めていきます。また、各ご家庭でも後述する「ご家庭へのお願い」をお読みいただき、ご指導・ご協力をお願いいたします。

- ・実施日 令和5年4月13日（木） 質問紙調査（オンライン）
4月18日（火） 教科に関する問題（全国一斉）
- ・対象 全国の小学校6年生及び中学3年生
- ・調査内容 ①教科に関する問題（国語・算数）
主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題を一体的に出題
②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

※調査に参加した6年生には、学級において答え合わせや問題の解説を行います。

本校の状況(全国・県との比較)

本校の結果は、国語・算数ともに、全国平均・県平均とほぼ同等でした。

(全国正答率の $\pm 5\%$ の範囲にある場合は、全国平均とほぼ同等であるという分析)

各教科の結果

(◎成果 ●課題)



国語

◎内容別の正答率をみると、「話すこと・聞くこと」が全国及び県を上回っています。

「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心をとらえること」ができています。

◎記述式の問題の正答率が全国及び県とほぼ同等です。目的や意図に応じ、話の内容をとらえ、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることができています。選択式の問題の正答率が全国及び県を上回っています。

●「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる力」等に課題があります。

算数

◎領域別の正答率をみると、「図形」「変化と関係」が全国及び県を上回っています。「数と計算」、「データの活用」等、他の領域はほぼ同等です。

「図形の意味や性質について理解すること」ができています。また、「表の中の適切な数の組を用いて、伴って変わる二つの数量の関係を説明すること」ができています。

◎記述式の問題の正答率が全国及び県とほぼ同等です。求め方や回答の根拠となる理由等を記述することができています。選択式、短答式の問題の正答率が全国及び県を上回っています。

●「複数のグラフを組み合わせて読み、違いを言葉と数を用いて記述する力」等に課題があります。

★改善点★

基礎的・基本的な知識・技能の定着（漢字や計算等）について、単にドリル等を繰り返すことではなく、問題を解決する場面をより多く設定し、その中で必要な知識及び技能を活用しながら定着できるようにする。

☆国語…文章を読んで理解したことについて、既存の知識や理解した内容と結び付けて自分の考えを形成するような学習の機会を増やす。
グラフなどを含めた複数の情報を用いて、自分の考えが伝わるような書き表し方を工夫するような学習を行う。

☆算数…複数のグラフを比較したり、何種類かのグラフ用紙の中から適切な用紙を選択したりする学習の機会を増やす。
解決したい問題に応じて定めた観点によって、データを表に分類整理したり、グラフにまとめたりすることで、特徴や傾向を捉え考察する学習を行う。



質問紙調査の結果

質問紙調査は、学校や家庭における勉強や生活の様子について調査したもので、全部で 59 項目あります。本校の特徴は次のとおりです。(なお、文中の「肯定的」というのは、問いに対して「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えている場合をいいます。)

生活について

○ほとんどの児童が、「朝食を食べる、決まった時間に就寝・起床をする」など、ご家庭での毎日の生活基盤がきちんとされていることがうかがわれます。

自分や友だち・学級について

- 「自分にはよいところがあると思うか」「先生はあなたのよいところを認めてくれると思うか」の問いに肯定的に答えている児童が 8 割を超え、高い自己有用感をもっていることがわかります。
- 「将来の夢や目標をもっているか」「人の役に立つ人間になりたいと思うか」の問いに肯定的に答えている児童が 9 割を超えています。
- 「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人に相談できるか」「友達関係に満足しているか」の問いに肯定的に答えた児童が 8 割を超え、精神的に安定した学校生活を送れていることがうかがえます。

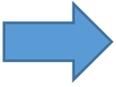
学習について

- 平日の勉強時間は、「2 時間～3 時間」が 3 割、次いで、「1 時間～2 時間」「30 分～1 時間」がそれぞれ 2 割程度となっています。土・日などの休日は、「1 時間以下」の児童がほぼ 4 割です。
- 「国語・算数の勉強は大切だと思うか」の問いには、9 割以上の児童が肯定的に答えています。

地域や社会への関心について

- 地域の行事に参加している割合は 4 割程度で、県および全国より低いです。
- 「新聞を読んでいるか」の問いについて、「全く読まない」と答えた児童は 6 割を超え、依然として低い傾向にあります。
- 「外国の人と友達になったり、外国のことをもっと知ったりしてみたいか」「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思うか」の問いに、8 割程度の児童が肯定的に答えています。





★改善点★

☆すべての学習活動において「見通し」と「振り返り」を大切にする。児童が自分なりに「何を」「どのように」学ぶのかを理解したうえで、活動の最後に「何が分かったか」「何ができるようになったか」を振り返ることで、日々の確かな学力を育む指導に努める。

☆「各教科等で学んだことをいかしながら、自分の考えをまとめる機会」や、「学級の友達との間で話し合うことで、自分の考えを深めたり広げたりする機会」をもつことで、児童一人ひとりが自主的・主体的に活動し、充実感や達成感を得ることのできるような指導に努める。

☆「情報モラル教育」を、引き続き積極的に行う。また、同地区の中学校の定期テスト等にあわせて「NO テレビ・ゲーム・スマホDay」の実施機会を設定し、取組を推進する。

ご家庭へお願い

○児童は意欲的に学習に取り組もうとしています。また、ノート指導や一人一台端末（タブレット）の活用などを通じて、授業に取り組む姿勢も日々向上しています。しかしながら、確実に身につけてほしい基礎的・基本的な学習内容の定着が不十分な現状もあります。

「家庭学習」の手引き等を参考にしながら、今後も自主学習への取組のご協力をお願いします。

○学力と生活習慣は密接に関係しています。「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣を、今後ご家庭で継続していただきますよう、お願いします。

○学校では、ICT機器を積極的に活用しています。その際に、情報モラル等についても指導しています。ご家庭でもスマートフォン、ゲーム機等の使用時のルールづくりをお子さんと一緒にすすめ、ご家庭と学校で連携して有効な活用できるようにご協力をお願いします。

